

保育計画成果報告書

法人名	社会福祉法人 正愛会
施設名	南船橋保育園
報告者（役職）	太田 富美枝（園長）
住所・連絡先	千葉県船橋市若松2丁目3-15
	☎ 047-401-5115
	E-mail umie-o@f-futaba.jp

○タイトル（保育計画）

乳幼児期を心身ともに健やかに！

○主な助成備品

鉄棒、楽器等

1. 実施した保育計画策定の目的

開園して間もない本園には、鉄棒や楽器等の備品が整っていなかった。

一年ごとに成長していく子ども達、様々な意味でいろいろなことに興味や関心を向け、吸収しようとするこの時期を保育園で過ごす子ども達に豊かな環境（乳幼児期に望ましい環境）を整えてやり、少しでも多くの経験をしてほしい。五感を刺激し、運動機能や音楽感覚などの発達を促し、情緒豊かな子ども達の育成を目指したいと考えた。さらに、短期の取り組みにならず、長期にわたりあそびの中で鉄棒や楽器に触れ、子どもの経験が豊かになるようにと願い、計画をしていくこととした。

【鉄棒があるあそび】

「転んだ時に腕を出せないため顔や頭を強打する」「腕や足を骨折する」というような子どもの姿が多くみられる。そこで、運動の基本となる鉄棒に積極的に取り組み、少しでも体力をつけ、全身の平衡感覚やバランス感覚、逆さ感覚、握力など発達に応じた運動機能を鍛えていきたいと考えた。

【楽器を使つての保育】

CDに合わせて体を動かしたり、歌を歌ったりするのが好きな子どもは多い。しかし、大きくなるにつれて楽器に向かうことが「苦手」になる子どもが少なくない。乳幼児期の経験のあり方から考え、乳幼児期に「楽器に向かうことが楽しい」「いろいろな楽器に触れてみたい」「やってみよう」と思えるような経験をすること。あそびから始める事が大切と考える。それが、学童期につながり、あらゆる場面で苦手意識をなくし、意欲につながればと思い取り組みをはじめた。

2. 具体的な実施内容

【鉄棒があるあそび】

- ・保育士が鉄棒に関する知識を学び「ぶら下がり」「前回り」「逆上がり」等、年齢や成長及び子ども自身の経験に合わせた活動を取り入れ、経験を増やしていくようにした。
- ・短期の教え込みにならず、鉄棒をあそびの中のひとつとして捉え、毎日そして長期にわたり鉄棒に触れていけるように考えた。
- ・長期継続的な活動として取り入れ、少しずつ体力・運動機能の発達につなげていく。
- ・子ども達の運動機能発達状況を確認したうえで鉄棒への取り組みを促す。あそびの中でできるところから始めることで「苦手意識」がなくなり、毎日のあそびへとつながっていった。



【楽器を使つての保育】

- ・未満児…あそびの中で音の出る手作りおもちゃや玩具を使用することを楽しむ

物をたたいたり、こすったり、はじいたり、振ったりすると音が出る。そんなたのしいあそびから始まる0歳児。手ざわりや色、形、音色等子どもにとって気持ち良いと思えるような手作りおもちゃを準備したり、玩具をそろえたりした。また、ペットボトルや木の実などの身近なものを利用して、子どもと一緒に手作り楽器を作る楽しさを経験できるようにしていった。柔らかいや硬い冷たいやあたたかい、大きいや小さい、○△□の認識へとつながっていき、様々な感覚を刺激していった。



また、ペットボトルやマヨネーズ容器等、馴染みのある生活用品を工夫していくことにより子ども達がより抵抗なく音の出るおもちゃに興味・関心を寄せていたようだった。さらに発達に応じ、カスタネットや鈴などの楽器に触れていた。



- ・以上児…いろいろな楽器に触れ、音を奏でる楽しさ、友達と一緒にリズムを合わせる事の心地よさを感じる

音楽（CD）に合わせたリズム遊びの際、鈴やカスタネット、マラカスを一緒に準備する。曲に合わせて音を出すことを喜び、「やってみたい」と思う気持ちを刺激していく。また、楽器の扱い方により音の出方が変わることによって自分で気づくようになった。さらに「他の楽器もやってみたい」「ならしてみたい」「どんな音がするのか」と、楽器に対する興味が徐々に強くなっていった。発表会に向けて、合奏として取組みをはじめると、子ども達の意欲を大事にして積み重ねていった。



3. その成果と評価

- 普段の園庭あそびの中に、鉄棒が出来たことで、子ども達のあそびにも変化が見られた。
 - ・学年（成長）に見合った「前回り」「逆上がり」などにチャレンジする姿。
 - ・古タイヤやビールケース等を駆使し、鉄棒との合わせあそび・発展的なあそびをしていく姿が見られた。
 - ・あそびを工夫し、創造力を働かせる姿が、鉄棒以外のあそびにおいても見られるようになった。

○ 合奏に取り組む姿を見て

- ・「やってみたい」「お家の人に見せてあげたい」という意欲が高まった。
- ・担任保育士に向ける集中力が増した。
- ・楽器に対しての興味や関心が高まり、「どうしたら良い音が出るか」や聞きながら鳴らす事を学んだ。
- ・あそびや活動に取り組む時の持続力がついた。
- ・みんなで一つの事を成し遂げようとする思いと達成感を味わうことが出来た。

4. 今後の課題と展望

あそびに対して、子どもの自由な発想を認め援助していく事。子どもの思いに保育者も共感し一緒にあそぶ事で、子ども達の創造力や活動への意欲をさらに育てていきたいと思う。子どものあそびの方向性をしっかりと見極め、ただ「見守る」だけでなく意図的な援助の仕方を考えておく事の大切さを知って保育をしていきたい。

鉄棒や楽器だけに限らず、あらゆる可能性・無限の力を持つ子ども達のために。五感を育て、協調性や適応性を育てていく。状況を判断する力や物を大切にすることを育てていく。「できないから…」という苦手意識から消極的にならないように、何事にも「やってみたい」と思えるような、意欲的な子どもを育てていきたい。

以上